

坂の上通信

令和四年十二月二十一日
広島市立美鈴が丘高等学校
新聞文化部(四〇三演習室)

実施 さわやか清掃

179袋分のゴミ集まる

11月12日(土)、美鈴が丘高校付近で今年も「さわやかハイスクー地域清掃ボランティア」が行われた。部活動での参加を中心に、約150名の生徒が集



自分たちの通学路を掃除する生徒たち

まった。皆、普段利用している通学路を、ほうきでいたり草をぬいたりして熱心に清掃していた。

さわやか清掃に14年間も参加されていると

いう生物の村井先生は、「毎年植物の変化などを気にしながら掃除している。今年はマテバシイという細長いどんぐりを初めて見つけた。また、日頃から毎日坂を掃除していると思われ男性が美鈴の生徒に感謝をしていたことが印象的だった。1人では掃除が行き届かないところをさわやか清掃で掃除してくれたことに感謝をしているのだろう。掃除をしたあとは綺麗になって良い。」と語った。

学校の「顔」にインタビュー



今回は、国語科の加納先生にインタビューを行った。

なぜ先生になったのですか

小学生の時は小学校、中学生の時は中学校、高校生の時は高校の先

生になりたいと思っていました。生徒にほんのり寄り添える、話を聞ける先生になろうと思っ

た。国語が一番得意だったから国語の先生。

学生時代の部活は？
中学はバスケット、高校は書道部だった。

今ハマっている小説は？
空色勾玉シリーズ。子供が古代ファンタジーが好きで子供に読ませたいと思い、自分が読んだらハマった。

美高生の印象と美高生に一言

とても素直なところが可愛いと思う。自分が見たいことを考えて行動してくれるともっといい。

身近にある

外来種

また、全国的にも問題視されている外来種への懸念も語った。

「勝手に野生化したものを外来種というが、外来種自体は悪くない。外来種は「この植物綺麗だから持って帰ろう」というような人間のエゴで、今まで住んでいた場所から異国の地に連れてこられたものが多い。そして、たまたまその環境が植物に合っていて繁殖するようになっただけのこと。在来種を駆逐してしま

うほどの旺盛な繁殖力をもつオオキンケイギクは美高でも観察することが出来る。これ以上繁殖しないよう毎年種子をつける前に伐採回収をし、対策もしている。」



清掃前(右上)と後(右下)の写真



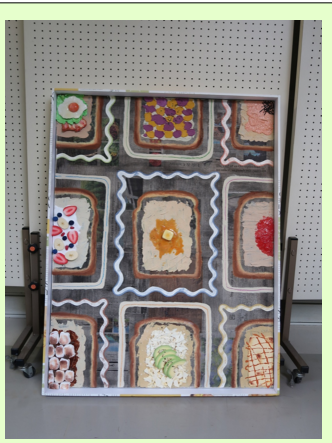
オオキンケイギクの画像(環境省HPより)

部活動紹介

今回紹介するのは美術部である。

現在部員は3年生4人、2年生5人、1年生6人の計15人です。普段はコンクールに向けた作品作りやデッサン講習会などを行っています。

今回3年の久保田理瑞さんが、広島県高等学校総合文化祭絵画



山崎愛果さんの作品

作品の前でポーズを決める久保田理瑞さん

部門大賞、同じく3年の山崎愛果さんがデザイン部門特選、2年の岡本望心さんが絵画部門とデザイン部門で特選に選ばれました。3人にそれぞれコメントをもらいました。久保田さん「直感でこの場面を描きたいと思



赤い羽根募金 協力多数

11月14日から18日までの5日間、生徒会に

よる赤い羽根共同募金運動が行われた。朝は脱靴場前、昼は食堂前で15分間行われ、多くの生徒が募金に集まっていた。集計の結果、9千388円もの募金が集まったことがわかった。



生徒会長の津田さんは、「最初は募金してくる人が集まらなかったが、途中から新しいアイデアを取り入れたことにより募金してくる人も増えた。具体的には、朝早くから下駄箱周辺で活動していたが、早すぎてあまり人がいなかった。人がいる時間帯などを考慮し、朝は遅めに活動開始してお昼に食堂の前で募金活動をするようにしたりなど工夫した。たくさんの方が協力してくれて嬉しかった。」と語った。

美・鈴・鈴・鈴

先日行われた赤い羽根共同募金。赤い羽根募金で寄付されたお金はどうなるのか。▼赤い羽根募金は戦後間もない1947年に民間運動として始まった。当初戦後復興の一助として、被災した福祉施設を中心に支援が行われ、地域福祉の推進のために活用されてきた。現在も「じぶんの町を良くするしくみ」として取り組まれている。(赤い羽根共同募金HP)

編集後記

「中国新聞みんなの新聞コンクール学校新聞の部」で新聞文化部の作品が入選しました!